

放射線科

体制

スタッフの変化:2015年3月末に、後期レジデントの櫻木満理が神戸中央医療センターに、中島宏徳が関西電力病院に、佐藤敏之が京都医療センターにそれぞれ赴任した、4月より副部长として澤田健が県立尼崎病院から、医員として糟谷誠が関西電力病院から、桑原遼が京都医療センターから、後期レジデントとして太田梓が岸和田市民病院から着任した。

当施設は、日本医学放射線学会の放射線科専門医修練機関として全部門(放射線診断・放射線治療・核医学診療)で認定されている。本年度初頭に更新した。

本年度検査・治療:

単純写:胸部 65,152(内診断 29,102)、腹部 11,642、骨 19,958、マンモ 3,501、骨塩定量 2,351、その他 3,209。

CT: 外来 23,963、入院 9,093。全例読影。

MRI: 外来 15,993、入院 5,008。全例読影。

血管造影: 心臓 983、非心臓 381。

RI: 2133。全例読影。

放射線治療 3,242 内定位照射 56。

(延入院患者数: 1,424人 延外来患者数: 5,026人)

診断においては、読影の質の保持・向上をめざし、かつ効率化をめざす必要がある。増加しつつある遠隔診断に対して、病院診療科としてどう取り組むかが課題となっている。またX線透視や血管造影の手技・診断内容については、効率化とリスクマネジメントなどについてさらなる努力をなすべきである。

放射線治療部門は日本放射線腫瘍学会の認定協力病院である。各科と協力し、通常の外部照射を始め、術前化学放射線療法、同時化学放射線療法など集学的治療に積極的に取り組んでいる。脳腫瘍に対する定位放射線治療も行っている。肺を対象とする定位放射線治療システムも稼働後で症例を重ねている。

新棟建設に併せて RI 部門の刷新と FDG-PET CT の導入を、また強度変調放射線治療(IMRT)を含む新たな放射線治療機器の導入を検討中である。

放射線科医師スタッフ、レジデント

光野重根 (嘱託部長 S51 卒、専門：消化器診断) 放射線診断専門医
奥村亮介 (主任部長 S59 卒、専門：脳神経診断) 放射線診断専門医
高木雄久 (部長 H2 卒、専門：放射線治療) 放射線治療専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
上野 誠 (副部長 H5 卒、専門：核医学診断) 放射線診断専門医
芝田豊通 (副部長 H10 卒、専門：IVR) 放射線診断専門医
熱田智子 (副部長 H13 卒、専門：放射線治療) 放射線治療専門医
久保滋人 (嘱託医員 H6 卒、専門：循環器放射線診断) 放射線診断専門医
光野重芝 (医員 H21 年卒。京大より・放射線科専門医)
佐藤敏之 (後期レジデント H22 年卒 京大より・放射線科診断修練医)
中島宏徳 (後期レジデント H22 年卒 京大より・放射線科診断修練医)
櫻木満理 (後期レジデント H22 年卒 京大より・放射線科診断修練医)
岡野 拓 (後期レジデント H23 年卒 京大より・放射線科診断修練医)
田中 寛彬 (後期レジデント H24 年卒 京大より・放射線科診断修練医)
安部久志 (非常勤、専門；腹部診断) 放射線診断専門医

研究実績

学会発表

井上依里香他 小児線維形成性小細胞腫瘍の一例 第 61 回なにわ臨床画像研究会
2016/6/1 (大阪)
松本(栗山)優香、久保滋人、澤田 健、井上依里香、田中寛彬、乗本周平、太田 梓、
染矢祐子、糟谷 誠、芝田豊通、上野 誠、奥村亮介、辻なつき、永野忠義、松崎直美
非典型的な画像所見を呈した卵巣境界悪性粘液性腫瘍の一例 JSAWI(Japanese
Society for the Advancement of Women's Imaging) 第 17 回シンポジウム
太田 梓、久保滋人、澤田 健、芝田豊通、上野 誠、糟谷 誠、染矢祐子、田中寛彬、
乗本周平、松本優香、井上依里香、奥村亮介、安堂有希子、永野忠義、弓場吉哲 卵
巣甲状腺腫カルチノイドの一例 第 52 回日本医学放射線学会秋季臨床大会
2016/9/16-9/18 (東京)
太田梓 頸椎骨転移で発症した膵管内乳頭粘液性腺癌の一例 第 62 回なにわ臨床
画像研究会 2016/10/5 (大阪)
松本優香他 卵巣腫瘍加療の経過中に Olier 病と判明した一例 第 63 回なにわ臨床
画像研究会 2017/2/1 (大阪)
奥村亮介 腹部画像診断あれこれ 大阪市北区医師会第 131 回学術講演会
2016/11/12(大阪)
乗本周平他 乳房部腫瘍で発症した下大静脈原発平滑筋肉腫の一例 第 63 回なに
わ臨床画像研究会 2017/2/1 (大阪)